

2022年

第17回 ソーシャルワーク研究所 シンポジウム

12/11日

対面・オンライン
選択できます

暮らしの「転換期」における 社会福祉の制度・政策とソーシャルワーカーの役割 —一人ひとりの「Life」を支える支援とは—

※本シンポジウムは、明治学院大学白金校舎（東京都港区）にて「対面型」で開催します。
なお、「対面型」での参加がかなわない方は「オンライン型」でご参加いただけます。

※新型コロナウイルスの感染状況等により開催方法や内容等が変更となる場合があります。

●プログラム（敬称略）

開催趣旨と進行方法の説明	13:00～13:10
所 長：北川 清 一（ソーシャルワーク研究所所長、明治学院大学名誉教授）	
総合司会：丹野真紀子（大妻女子大学教授、ソーシャルワーク研究所相談役）	
第1部 【主 題 講 演】	13:10～14:30
講 師：武川 正 吾（明治学院大学教授） 「社会政策学がソーシャルワークに期待するもの —『制度としての社会福祉』におけるソーシャルワーカーの役割再考—」	
コメンテーター：渡部 律子（日本女子大学名誉教授、ソーシャルワーク研究所相談役） 「ソーシャルワーカーとソーシャルワークは問題提起にいかに対応するか」	
司会進行：久保 美 紀（明治学院大学教授、ソーシャルワーク研究所相談役）	
第2部 【指 定 討 論】	14:40～16:00
〈「Life」を支える現場実践者が語るソーシャルワークの現在と未来〉	
発題者1：早坂由美子（北里大学病院トータルサポートセンター課長、元日本医療ソーシャルワーカー協会会長） 「『地域連携推進室』は医療ソーシャルワーカー新時代の到来を意味するのか —人間の『Life』を支える当事者支援を再考する—」	
発題者2：朝比奈ミカ（中核地域生活支援がじゅまるセンター長、市川市生活サポートセンターそら主任相談支援員） 「コロナ禍における生活困窮者支援の実際と浮上している課題 —ソーシャルワーカーによるマイクロアプローチの意義を再考する—」	
発題者3：中 恵 美（金沢市地域包括支援センターとびうめセンター長） 「高齢者家族の新たな『生活困難』の実相とソーシャルワーカーへの役割期待 —対人援助専門職としての相談機能を再考する—」	
司会進行：丹野真紀子	
第3部 【グループディスカッション】	16:05～17:20
・四つのグループに分かれて「ディスカッション（質疑応答）」を行います。 ・17時から約20分間、全体会にてファシリテーターによる「グループディスカッション報告」を予定しています。 ・グループ1～3（対面型）は参加申込み時に希望を伺います。申込み状況によりご希望に沿えない場合があります。	
[グループ1] ファシリテーター：稗田里香（武蔵野大学教授）＋ 早坂由美子 [グループ2] ファシリテーター：新保美香（明治学院大学教授）＋ 朝比奈ミカ [グループ3] ファシリテーター：川向雅弘（聖隷クリストファー大学教授）＋ 中恵美 [オンライン] ファシリテーター：丹野真紀子 ＋ 久保美紀	
閉会の挨拶（総括）	17:20～17:30
所 長：北川 清 一	

●開催趣旨

鎮静化の見通しも立たない新型コロナウイルス感染や、長期化するロシアによるウクライナへの軍事侵攻が市民生活にもたらした地球規模の影響等を受け、一段と複雑・多様化する混迷は、私達の暮らしが「転換期」にあることを教えている。そのような実態に対応するソーシャルワーク、あるいは、ソーシャルワーカーの支援のあり方（役割）を論じる場合、現行制度の枠内に収まらない「生活課題（life task）」と対峙する専門職として、自らの「責任の範囲（射程）」をいかに「明確化」できるかは重要なテーマとなる。それは、久しく社会福祉学研究所の「主題（viewpoint）」として自明視されている「貧困」の対応に留まらない「一人ひとりが抱える生きること（life）の苦しみの構造」（「苦しみの構造」とは、村田久行『ケアの思想と対人援助（改訂増補版）』川島書店、1998年に詳しい）の解消に見通しが立たないままにあることによる。社会の営みが豊かになることと併せて「制度としての社会福祉」も大衆化を果たした。しかし、その一方で「社会問題の個人化」論が台頭し、「制度」が人を切り捨てる事態も常態化している。ソーシャルワーク研究所は、創設以来（1975年）、「制度」の枠内で展開される「社会福祉実践」と、人として主体的に生きる喜びを支え、人生の再設計を共に考えることを専門職アイデンティティとする「ソーシャルワーク実践」を峻別して考えるべき（大橋謙策）であり、そのような実践を理論に繋げる必要を訴えてきた。

しかし、これまで社会福祉領域で重ねられてきた議論は、人びとの暮らしの「現実」と乖離するかのよう結論に至ることも少なくない。その契機となったのは、1998年6月に取りまとめられた「社会福祉基礎構造改革について（中間まとめ）」を受け、2000年以降から顕著となる、為政者による当事者本位の取り組みを等閑に付す対応と考えたい。結果、関連法の下で運営される社会福祉組織が担う臨床現場では、「平等」「公正」の視座を中核に据えた「ソーシャルワーク実践」を「綺麗事」として一蹴する事態も生じている。その後、厚生労働省は、「新しい時代に対応した福祉の提供ビジョン」（2016年7月発行）と絡めて提起した「地域包括支援体制」について、これを地域住民や社会福祉法人が織りなす「共助」を基軸とする新しい「福祉システム」と説いた。それは、「家族は福祉の含み資産」（19

78年版『厚生白書』）とした捉え方を中核に据えた「日本型社会福祉」論と連動するものであり、『我が事・丸ごと』地域共生社会」政策を牽引し、ソーシャルワーカー業務のメインストリームとして押し上げることに力を与えた。

新聞紙面の「声（voice）」欄に『「自助」最優先にわだかまり』とのタイトルを付した投稿が目に残った（2021年10月6日朝日新聞朝刊：東京版）。「自助」の奨励と併せて「共助」の体現を求められる「制度としての社会福祉」について、「国民を守るべき立場の人」が「自助」のこなわない人を蔑む目線で見ていくように「腹立たしい」との思いが綴られていた。台頭する「自己責任論」「社会問題の個人化論」に内在する「思惑」への市民による意見表明のようでもある。

ソーシャルワーカーは、このように訴える「声」にいかに応えるべきであろうか。「社会の片隅にたたくむ一人の意見」に過ぎないと一蹴せず真摯に応えるのが、為政者との決定的な「違い」と銘記したい。「公助」が機能しないまま「Life（人生、生活、命）」が危機状態に陥っても、「無助」状態（宮本太郎）に置かれても、それでも声をあげることに躊躇いを感じながらたたくむ多くの市民／当事者が直面している「一人一人が抱える生きることの苦しみの構造」に「心を寄せる」必要性を改めて感じ取れることになろう。

ソーシャルワーカーとして対峙する「生活課題」は、一段と多様化し重篤化している。一人のソーシャルワーカーが担う業務量の負荷もあって、「かわり困難事例」から「身をすらすら」思いに駆られるが姿も側聞される。事態の改善に向けて取り組む仲間との何らかの「学び」は、専門職として必要な知識や技能（art）の集積と併せて、支援方法を構想する能力（competency）をいかに高めるか、「支援力」の強化をいかに図るかを考える契機となるに違いない。第17回目を迎える本シンポジウムは、ソーシャルワーカーを取り巻く閉塞状況の打開に向け、上述した問題提起を共有いただける皆様との議論の場として運営してみたい。特に、今回の学びでは、ソーシャルワーカーが当事者と出会い、「深い繋がりをもった関係性（engagement）」を構築する意義について再確認し、何らかの新しい変化を生み出すことに繋がるよう願っている。

●主催 ソーシャルワーク研究所

●開催方法 「対面型」および「オンライン型」

●開催日時 2022年12月11日（日）13：00～17：30（受付開始12：20）

●場所 明治学院大学 白金校舎（東京都港区白金台1-2-37）

●参加費 5,000円 ●参加対象 テーマに関心があれば、どなたでもご参加いただけます。

●募集定員 80名（対面型：60名、オンライン型：20名。定員になり次第締め切ります。）

●申込方法

- 1) 参加を希望される方は、研究所ホームページの申込みフォームに必要事項を入力し、送信してください。折り返し、申込受付メールを自動返信しますので、受信メールをご確認ください。
- 2) 研究所の銀行口座【みずほ銀行高輪台支店（普）1100462、名義：ソーシャルワーク研究所】に、参加費をお振り込みください。誠に恐れ入りますが、振込手数料はご負担願います。
なお、ご入金後の参加費は返金いたしかねますのでご了承ください。

●開催方法に関するお願い

- 1) 本シンポジウムは、3年ぶりに、明治学院大学白金校舎（東京都港区）にて「対面型」で開催します。
なお、「対面型」での参加がかなわない方は「オンライン型（Zoomミーティング）」でご参加いただけます。
参加申込み時に「対面型」「オンライン型」のどちらかを選択していただきます。
- 2) 新型コロナウイルスの感染状況等によっては「フルオンライン方式（すべてのプログラムをオンライン型で開催）」に変更となる場合があります。開催方法や内容等を変更する際は、研究所ホームページでお知らせします。

●お申し込み・お問い合わせ先

ソーシャルワーク研究所
〒272-0143 千葉県市川市相之川4-6-3-305
E-mail：swkenkyu@mail.meijigakuin.ac.jp

※お問い合わせはE-mailをご利用ください。

Tel & Fax：047-704-8007
URL：http://www.meijigakuin.ac.jp/~kitagawa/